

世界食料危機と コメ輸出大国ベトナムの対応

岡江恭史

(農林水産政策研究所)

はじめに

世界のコメ生産・輸出と日本へのコメ輸出
の上位5カ国とシェア (2007年)

	世界のコメ生産量	世界のコメ輸出量	日本のコメ輸入先
第1位	中国 (28.6%)	タイ (23.7%)	アメリカ (54.2%)
第2位	インド (21.6%)	ベトナム (18.3%)	ベトナム (14.3%)
第3位	インドネシア (8.5%)	インド (17.5%)	タイ (13.2%)
第4位	パキスタン (6.8%)	パキスタン (14.6%)	中国 (12.3%)
第5位	ベトナム (5.6%)	アメリカ (7.7%)	豪州 (5.9%)

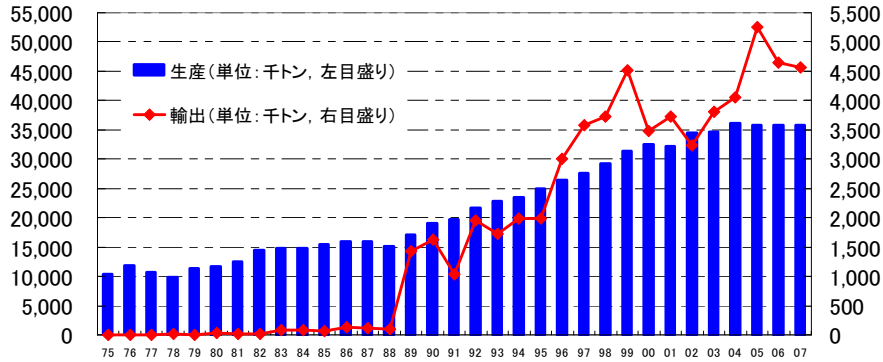
資料: FAO, JETRO

現在ベトナムは世界のコメ市場に大きな影響力を持つようになり、昨今の**世界的な米価急騰**の一因として**ベトナムによる輸出制限**が指摘されている。

1. コメ生産の概況

ベトナム戦争後のコメ生産と輸出

資料: ベトナム統計総局



- 1975. ベトナム戦争終結
- 1976. 南部における集団化
- 1981. 共産党中央書記局第100号指示(個人請負開始)
- 1988. 共産党政治局第10号議決(集団生産解体)
- 2000. 政府第9号議決(量から質への転換)

3

ベトナム経済に占める農業・農村の割合

	1990	1995	2000	2005	2007
GDPに占める農林水産業の割合 (%)	38.7	27.2	24.5	21.0	20.3
輸出金額に占める農林水産業の割合 (%)	47.8	46.3	29.0	22.9	22.6
就業人口に占める農林水産業の割合 (%)	73.0	71.3	68.2	57.1	53.9
人口にしめる農村居住者の割合 (%)	80.5	79.3	75.8	73.1	72.6

資料: ベトナム統計総局

GDP・輸出金額の割合
が現在では20%に低下

反面、就業人口では今なお過半数、
人口の7割以上が農村に滞留

コメは摂取カロリーの約64%を占める圧倒的な主食(日本は約22%)。
ほとんどの農家がコメを生産し、零細な農地で自給的な経営。

4

コメのほとんどは南北2大デルタで生産

紅河デルタ：

年2期作。戦後集団農業生産、80年代から均等に分配
経営規模が小さいが、比較的均等。農家世帯の9割以上がコメを栽培、自給中心。

メコンデルタ：

年3期作。仏領期・旧南ベトナムで商品用・輸出米の
主産地として開発。
経営規模の平均は大きい、土地所有の不平等化。

その他の地域は、コメは常にギリギリ自給できるか不足の状態。

5

2. 国内需給動向と輸出

2.1. 2010年に向けてのコメ生産・輸出量の目標値と実際

年	2010年 目標値	実際のコメ生産・輸出量									
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
生産量(a)	33,000	32,529	32,108	34,447	34,569	36,194	35,833	35,827	35,917	38,540	38,940
輸出量	5,200	3,477	3,729	3,241	3,813	4,060	5,250	4,500	4,558	4,830	5,535
粗換算輸出量(b)	8,000	5,349	5,737	4,986	5,866	6,246	8,077	6,923	7,012	7,431	8,515
a-b	25,000	27,180	26,371	29,461	28,703	29,948	27,756	28,904	28,905	31,109	30,425
消費量/人 (精米換算)		228	218	240	231	237	217	223	221	235	

注：生産および輸出の単位は千トン。

資料：「2010年目標値」は2000年政府第9号議決、その他はベトナム統計総局

生産目標は早くも2002年に達成、輸出目標達成は2005年と2009年のみ。

理由：1) 政府はコメの国内消費はその後大きく減少するとの見通しに立っていたが、実際には減少どころか増加(流通段階の消失・家畜飼料用途)。

2) ベトナム米の世界市場での低評価

6

稲作農家のコメ用途の内訳(% , 2004年)

	紅河デルタ	メコンデルタ	全国平均
農家の食用	49.30	16.40	41.50
販売	23.00	70.00	34.00
備蓄	12.30	4.80	12.60
種まき	0.94	3.69	2.16
家畜飼料	11.30	2.90	7.40
他世帯への貸し出し	2.72	1.97	2.00
消失	0.40	0.10	0.20

資料：農業農村開発情報センター(2008)『2007年度のベトナム稲作部門および次年度の展望に関する年次報告』

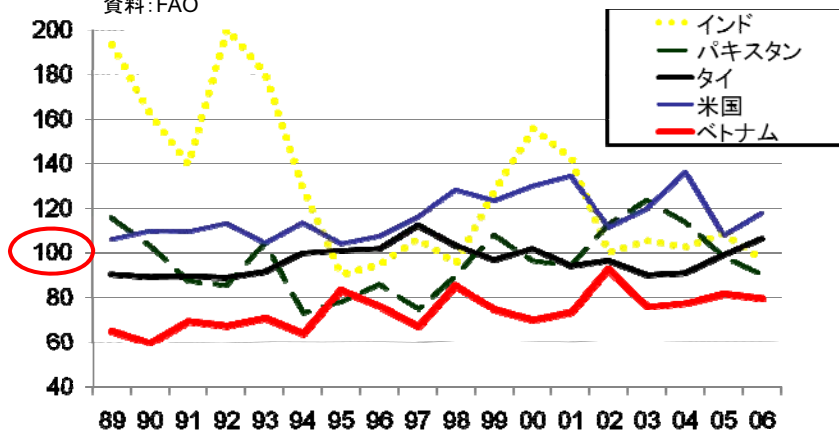
紅河デルタは、備蓄・家畜飼料・消失の割合がメコンデルタより遙かに大きい。
(小規模で不安定な経営が背景。今後の改善の余地あり)

7

2.2. 世界市場におけるベトナム米

2.2.1 世界5大コメ輸出国の輸出価格(世界平均=100)

資料：FAO



ベトナム米は常に世界平均より安価で評価

8

ベトナム米の品質向上に向けた政策

2000/6/15 政府第9号議決(量から質への転換)

2005/6/20 首相決定第150号(特にメコンデルタにおける灌漑整備事業への投資を増加して輸出米を増産させる。)

2006/11/7 WTO加盟決定(コメに40%の輸入関税)

2006/10/16 財務相決定第33号(カンボジア米無税輸入)

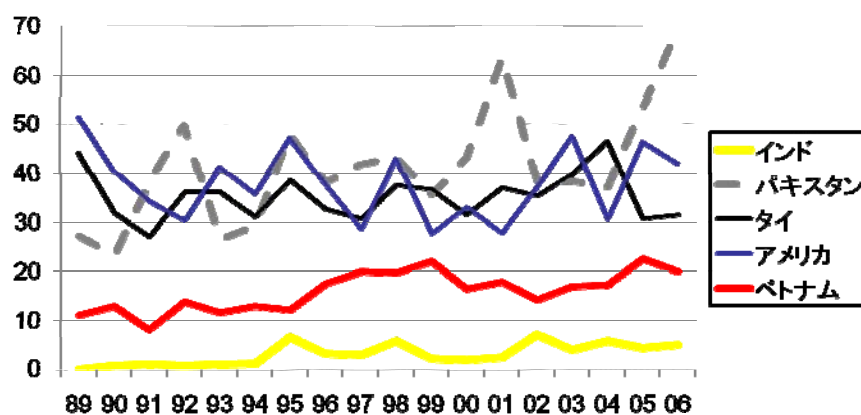
→輸出と競合するコメは遮断して、ベトナム国内の生産はできるだけ輸出用に

さらに世界食料危機後には、直播面積の制限・貯蔵庫建設に対しての優遇融資なども加わる。

9

2.2.2 世界5大コメ輸出国の生産量に占める純輸出货量の割合(%)

資料:FAO



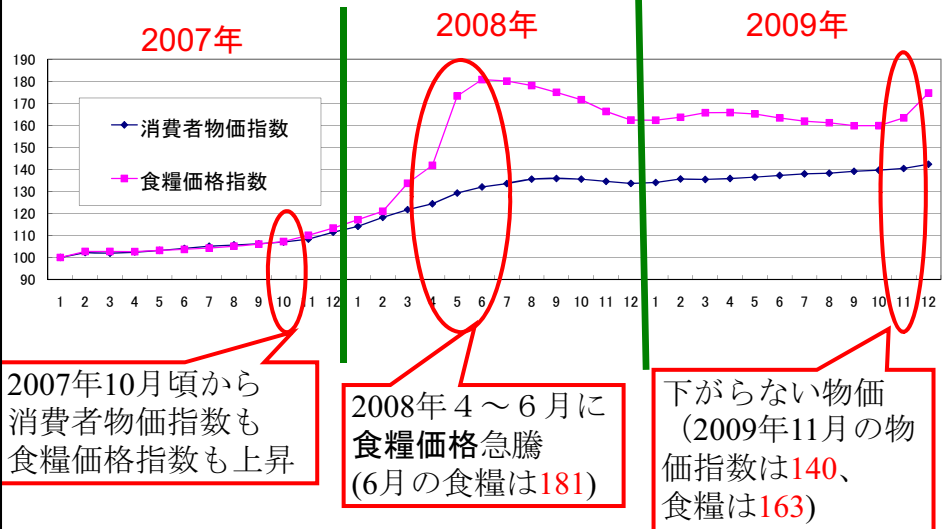
ベトナムは徐々に輸出の割合を上げている

10

3.世界食料危機への対応

3-1. 2007年～2009年の国内物価(2007年1月を100とする)

資料:ベトナム統計総局



3-2. ベトナムのコメ輸出システムとその変化

かつては、政府が輸出量・輸出先を決定する輸出割当

2001/4/4 首相決定46号で輸出割当廃止

1) 政府間契約(輸出量の8割):

政府が直接もしくは地方省を通じて、業者と割当量を決定

2) 自由契約(輸出量の2割): 業者登録制

⇒ 事実上の輸出割当が2001年以降も存続

2008年にベトナム政府が取った輸出規制措置

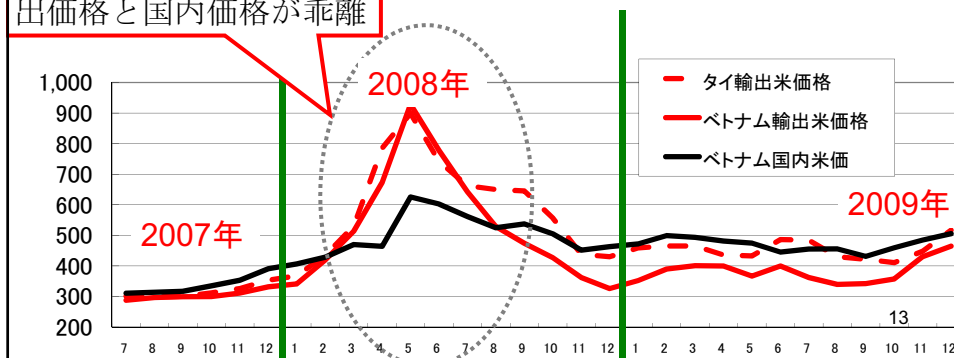
2008/3/25 政府通達第78号(6月末までの新輸出契約停止)

2008/7/21 第104号政府首相決定(臨時の輸出税。12月に解除)

⇒世界第2位のコメ輸出国ベトナムのこの措置はさらなる国際米価の高騰を招く(下記図参照。単位は米ドル/t。)

3月以降はベトナムの輸出価格と国内価格が乖離

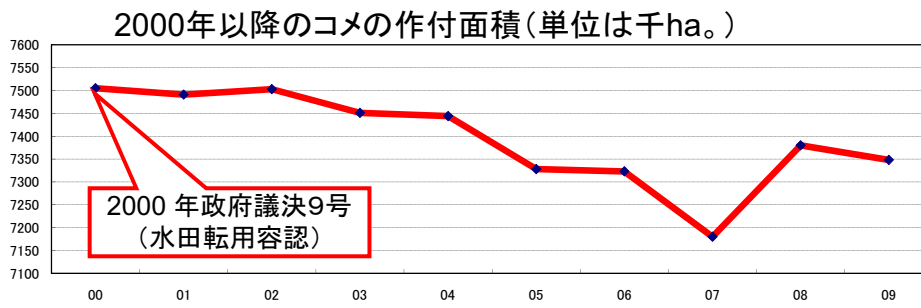
資料:農業農村開発情報センター,
ベトナム市況分析予報株式会社



2009年の輸出システムの変化

- ・2009年も2月から5月までコメの輸出規制
- ・作況が良好であることから、2009年6月に年内にはもう輸出規制を行わないことを決定
- ・6月15日付政府通達176号により、政府間契約の輸出米の各地方省への割当も廃止することを決定。どの地方のどの企業がどれだけ輸出してもかまわず、輸出に関する政府規制は大幅に緩和。

3-3. 2000年以降の水田消失と2008年の農地規制策



資料: ベトナム市況分析予報株式会社(2010)『2009年度のベトナムおよび世界のコムおよび次年度の展望に関する年次報告』

予想を上回る**水田減少**に対して2008年に**方針転換(転用規制)**

- 2008/4/18 首相決定第391号(水田専作地の転用禁止の方針)
- 2008/8/5 農業・農民・農村に関する共産党中央執行委員会議決第26号(国家食糧安全保障を農業政策の最優先課題にし、水田面積維持の方針を明確化)

作期ごとのメコンデルタのコメ生産の変化(2000・07・09年)

2007年以降は面積激増。生産は一環して上昇

資料: ベトナム市況分析予報株式会社(2010)『2009年度のベトナムおよび世界のコムおよび次年度の展望に関する年次報告』

		冬春作	夏秋作	ムア作	合計
おおよその栽培時期		11～翌4月	4～8月	8～11月	
2007年の単収 (t/ha)		6.0	4.6	3.5	
作付面積 (千ha)	2000年	752	1,882	544	3,178
	2007年	1,526	1,567	260	3,353
	2009年	1,549	2,019	254	3,822
生産量 (千t)	2000年	3,632	6,642	1,696	11,970
	2007年	9,827	7,279	1,035	18,141
	2009年	9,861	9,765	909	20,535

一貫して面積・生産拡大

一環して面積・生産縮小

2000年以降面積微減傾向にあったが、2007年以降は一転して激増。

3-4. 価格支持策の導入

・2009/3/4における首相と南北食糧総公司(独占的国有企業)との会議において、輸出用米の買い取り価格のうち少なくとも**30%は生産者**の利益となるように設定することを決定。

・メコンデルタにおいて、臨時備蓄用米として最低価格**3,800ドン/kg**(湿度17%の乾燥粳米)以上での**買い取り**指示(8/10に第1段階(40万トン), 9/9に第2段階(50万トン))。銀行から借り入れた場合は**利息を全額補助**。

・2009/12/23 国家食糧安全保障に関する政府議決63号公布
長期目標: **2012年までに食糧が不足する国民をなくし, 2020年までに食糧生産者の所得を現在の2.5倍に。**
施策: 稲作価格の30%を稲作農家の利益として保証

17

おわりに

1980年代からの経済自由化政策によって、ベトナムは**世界的なコメ輸出国**へと成長。しかし世界市場での評価は低いまま。

量より質の方針で、2000年政府9号議決は生産性の低い水田の転用を容認するが、結果政府の予想を遙かに超える速度で**水田喪失**(米価高騰の背景に)

国際的な米価高騰⇒ベトナム国内の**物価高騰**(コメが主食のため)⇒ベトナムは2008年に**輸出規制**⇒さらなる国際米価高騰。

世界食料危機を経てベトナムにはまだ**生産・輸出余力**があることがわかったが、今後とも**輸出規制**を行使する**可能性**は残っている。¹⁸